師範被服

本科用二

文部省

（第二綴）

50083

教科書文庫

5

920

51-1946

01304
49535

中央図書館

第二項　帶

帶は、着裝上衣服の安定を保ち、全體をひきしめる役目をなし、男女共に用ひる。その歴史は極めて古く、時代の服裝型式の變遷に伴なつて多少の消長はあるが、一般國民の服飾としては近世まで餘り目立たなかつた。然るに室町時代の末頃から袴・裳の着用が省略せられて小袖と帶の姿となると、帶が次第に注意せられるやうになつた。而して江戸時代に入つて庶民文化が勃興すると、それにつれて帶もまたやうやく發達してその中期より後期にかけて著しい發展をなし、材料・仕立方・結び方等に種々新工夫が加へられ、遂に服飾上重要なものとなつた。現代用ひられてゐるものには、この時代の風俗の影響をうけるところが少くない。

若い婦人が帶を胸高にしめることは、明治以後の風習で、帶は材料と共にますます裝飾化した。ここに於いて帶改善の聲が高まり、種々工夫が進められたが、大正の初頃發表せられた名古屋帶などはその一例で、これは次第に普及して今日に及んでゐる。

かくて帶は、今やその本來の使命に立ち、特に保健・活動・經濟等の面を重視して、現下の國民生活に適應する合理的なものへと研究が進められてゐるのであつて、婦人標準服の制定に當つても、帶の着用は缺くことの出來ないものとせられたのである。

なほ帶はゆかしい傳統をもつ服飾で、これを正しく着けることは、これまで日本女性のたしなみとして躾けられて來たところであるから、その研究に當るものは、これ等の點をも考へ合はせる必要がある。

○　帶の變遷について協同研究を試みよ。

○　帶はどの位置にしめるのがよいか。

一、種　類

平常用としては、半幅帶・名古屋帶・組合はせ帶等が用ひられてをり、そのうち便利なのはある。男子は一般に兵兒帶を用ひ、また角帶も用ひる。

二、材　料

帶側には絹・麻・木綿・人絹等いづれも用ひられるが、やや厚地の織物が適してゐる。色・柄等は表着との關係を考へ、夏季には爽凉の感を與へるもの、冬季には溫かい感じのものがよい。濕氣のために丈・幅が著しく變るものや、水分によつて色のにじむものなどは避けなければならない。有り合はせの材料を活用して工夫すると、經濟的で獨自の趣を出すことが出來る。帶心には布・紙等が用ひられるが、帶側により、厚さ・硬さ等を考へて選ぶべきである。

広島大学図書
0130449535

○　有り合はせの材料を用ひて帶側を工夫せよ。

三、寸　法

帶の寸法は、體格・着裝・材料等によつて異なる。普通胴廻りの方は二重にし、垂れの方は一重にするが、家庭着・羽織下等は更に簡易にしてもよい。

○　半幅帶の丈をきめるにはどうするか。

○　名古屋帶の形を圖示し、各自の寸法を記入せよ。

胴廻り及び手・垂れ・かくし・帶幅

四、地直し

地直しは、帶の仕立に關係が深いものであるから、材料に應じて適當に處置する必要がある。

○　帶側及び帶心の地直しはどうするか。

五、縫ひ方

名古屋帶

イ、帶側の釣合

○　厚さの異なつた二枚の布を合はせる場合、釣合ひをとるにはどうすればよいか。

ロ、標附

○　胴廻りの帶幅十六糎四寸三分、垂れの帶幅二十七糎七寸一分に仕上げるにはどのやうに標附をするか。要點を圖示せよ。

ハ、帶側縫ひ合はせ及びかくし附

○　帶の角を整へる工夫をせよ。

ニ、心拵へ、心の入れ方

○　帶心の幅、丈のきめ方はどうするか。またその裁切り方についての注意を述べよ。

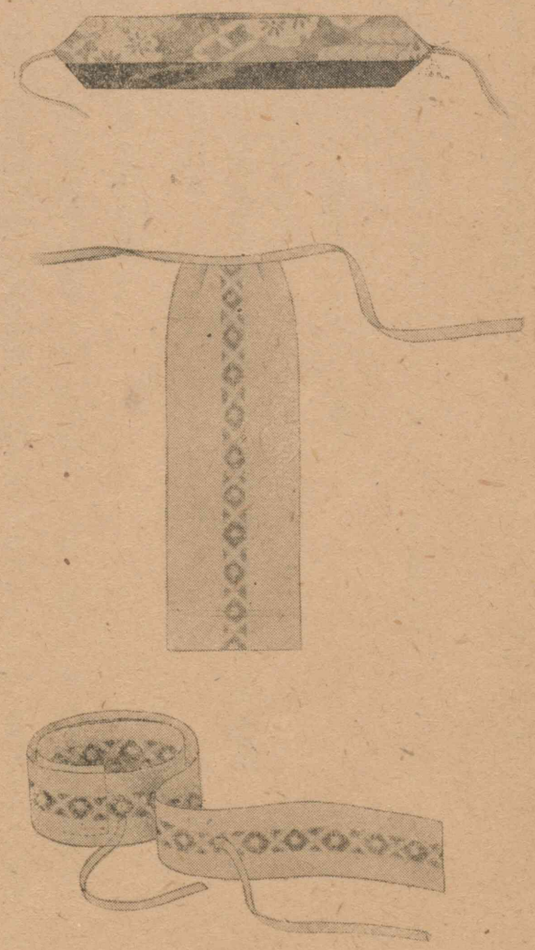
○　心の接ぎ方はどうするか。

○　心地によつては眞綿をひくとよい。何故か。

ホ、返し口の始末

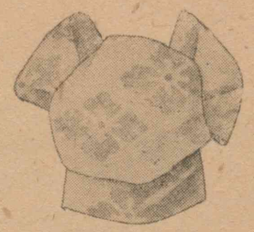
ヘ、仕上

組合はせ帶は、名古屋帶の胴廻りと垂れとを分けたやうなもので、布の用ひ方、しめ方に融通性がある。



○　圖示の組合はせ帶は、それぞれどんな特徴があるか。
○　垂れの方を結び上げたものと、その都度結ぶやうにしたものとどちらがよいか。
○　短袖にふさはしい帶の結び方を工夫せよ。

結び方參考



六、着用・反省

帶の結び方は年齢により場合によつて多少異なる。なるべく附屬品を用ひない結び方を工夫し、紐も必要な部分だけに用ひ、輕やかに結び上げる工夫が望ましい。帶しめは着裝の安定に必要であるし、配色の上にも大切である。帶は使用するにつれて、部分的に著しく褪色したり汚れたりすることがあるから、しめ方によつて幾分でもこれを防止する工夫が必要である。

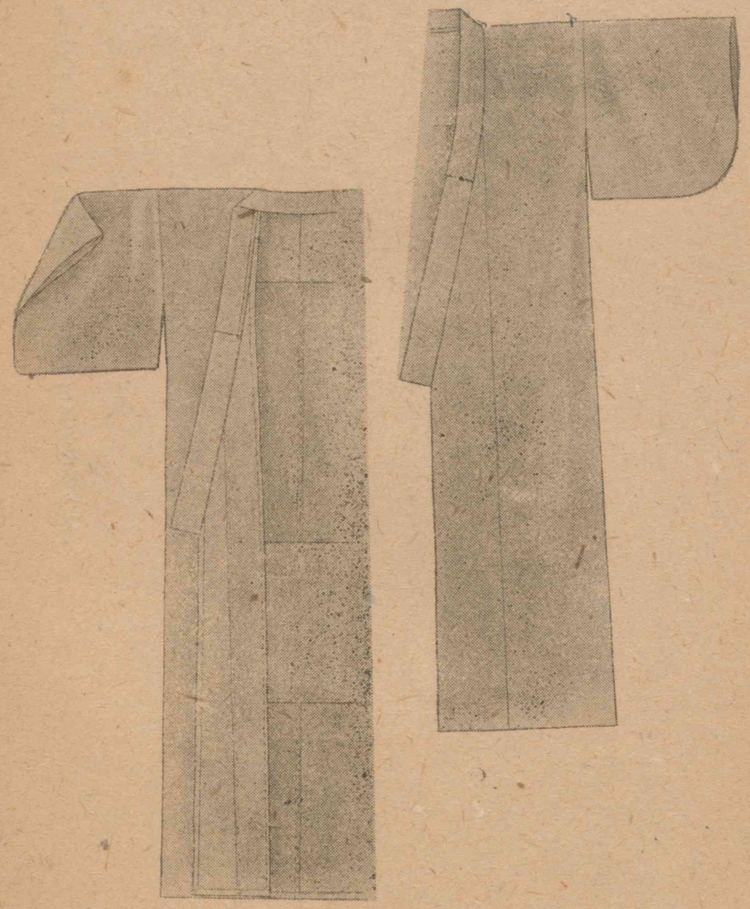
○　折り山の傷んだ帶側は仕立替のときにどうするか。
○　帶側の更生について考へよ。

第二節　通常和服

第一項　表着

第一　女物

一、形



二、寸　法

○　各自の出來上り寸法を示し、その據りどころを述べよ。

三、地直し

四、裁ち方

○　總用布九百四十七糎二丈五尺で一部式衽なしを裁つにあたり、特に衿について工夫し、なほ殘布の處置を考へよ。

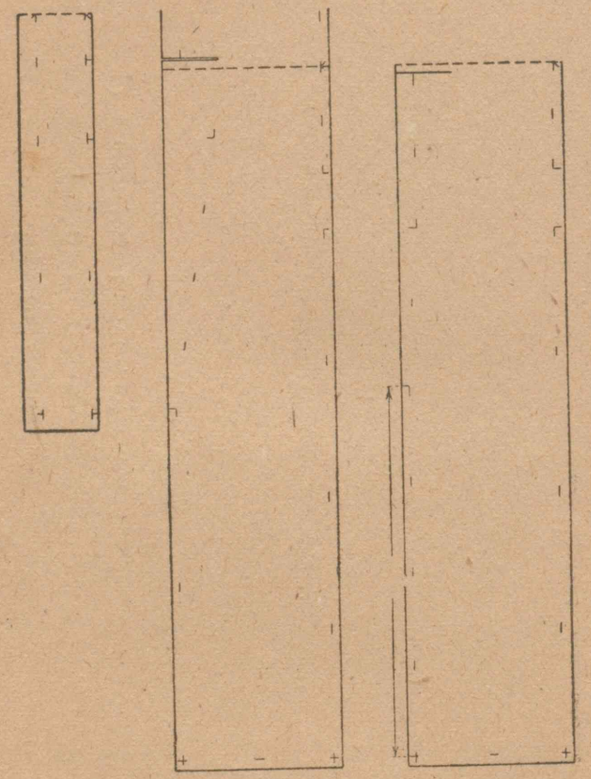
○　廣幅物での最も經濟的な裁ち方を考へよ。

○　衽附の場合の裁ち方を縮尺二十分の一で示し、相互に研究せよ。

五、仕立方

(一)　衽なしのもの

イ、標附け方



○　背縫ひ・袖附線等について上圖の他に異なる方法はないか。

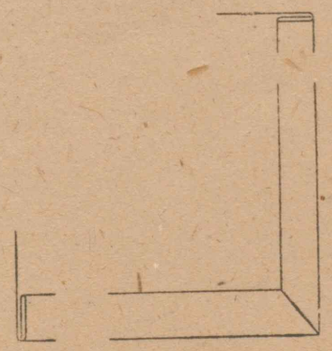
ロ、縫ひ方

○ 既習の縫ひ方順序と異なる方法を試み、兩者の得失を比較せよ。

○ 下圖のやうな褄先の整へ方を試みよ。

○ 衿附・衿紵の要所をわかり易く圖解してみよ。

○ 衿を撥衿にするにはどのやうにするか。



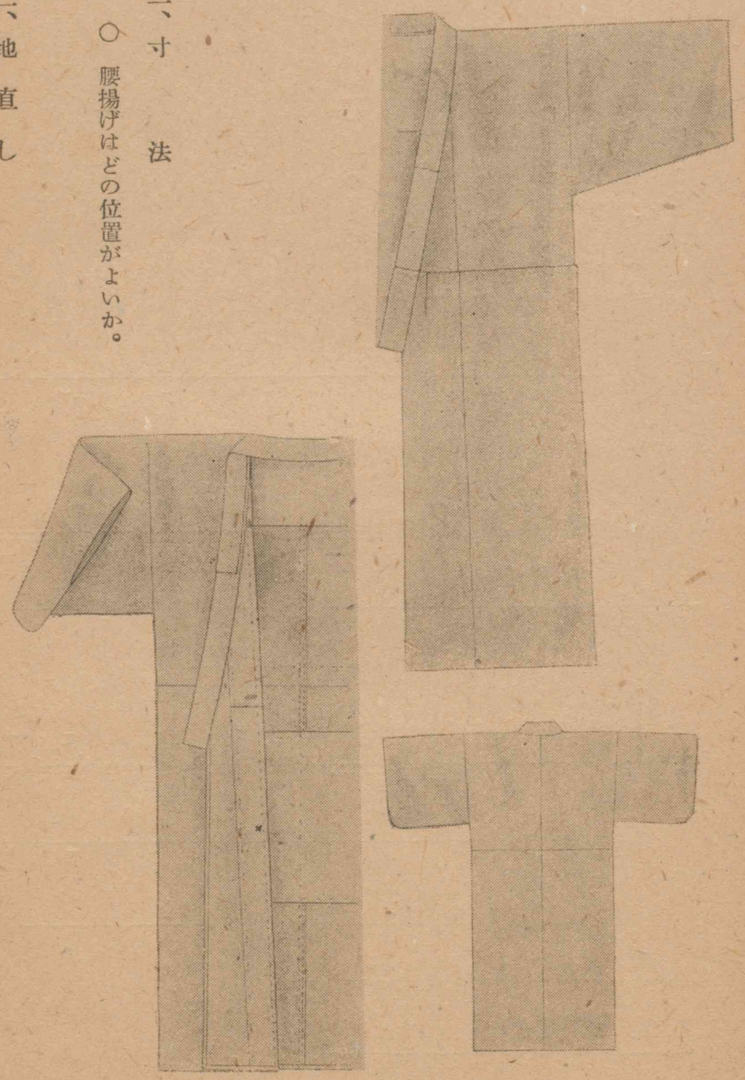
(二) 衽附きのもの

○ 衽なしのものと異なる部分について仕立方の要點を研究せよ。

第二　男　物

男子の平常着は、日本家屋の起居には一部式が便利であるから、一般にはこれが慣用されてゐる。

一、形



二、寸　法

○ 腰揚げはどの位置がよいか。

三、地　直　し

四、裁ち方

○ 總用布 九百八十五糎 二丈六尺 を以て男物身長百七十糎位曲尺五尺六寸の裁ち方を圖示し各部に寸法を記せ。

五、仕立方

イ、標附け方

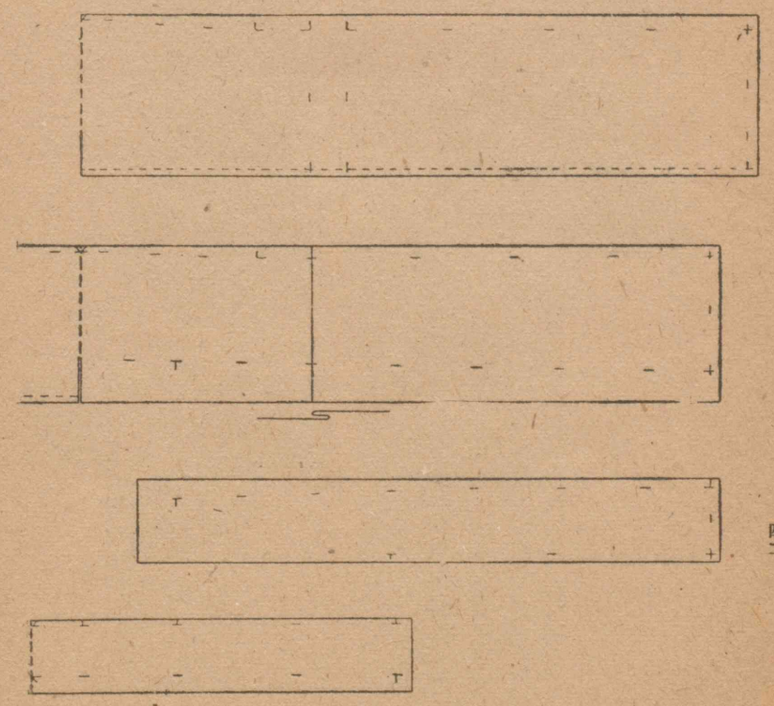
○ 前の内揚の高さを後より四糎一寸程下げた場合、内揚の標附をどうするか。

ロ、縫ひ方

○ 縫ひ方順序を考へよ。

○ 内揚と脇の縫ひ込の始末との關係について考へよ。

○ 袖附の注意を述べよ。



六、着用・手入

○ 男物として特に傷み易い個所はどこか。その裁縫上の考慮を問ふ。

第三節　洋式標準服（婦人標準服甲型）

洋式標準服は婦人の活動的な被服として用ひられてゐる。さうしてその特殊性に鑑み、部分的變化は許されるが、どこまでも簡素な形を目標に、氣候・風土・生活樣式に一層適應するやうに研究を進めることが大切である。

なほ洋式標準服は、材料と意匠とが密接な關係をもつものであるから、特にこの點に留意することが肝要である。また一部式・二部式はそれぞれ特長をもつ故、用途に應じて用ひるやうに留意する。

○ 夏の平常着として一部式と二部式とを比較せよ。

一、形・材料

夏の平常着としてその形・材料についての要件は前述の通りであるが、製作上からは高溫多濕の氣候に備へて特に袖・衿・明き等に工夫を加へる必要がある。

基本型

一部式一號

一部式二號

應用型

二部式

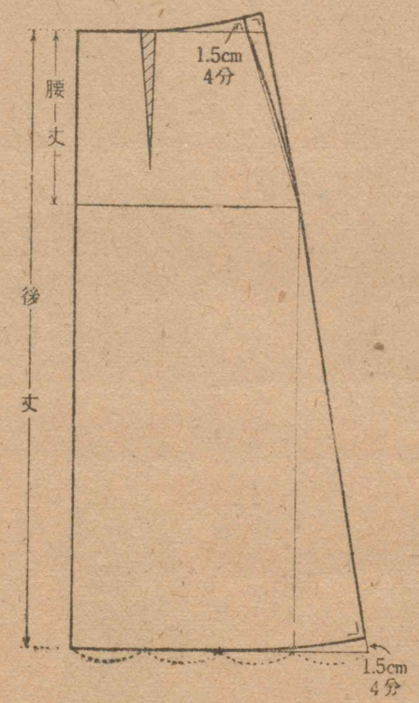
一部式

○ 並幅物を使用するに都合のよい服の形を考へよ。

○ 標準服甲型にふさはしい和服生地の色・柄を考へよ。

二、型紙の取り方

下衣の原型



前後を重ねてかく。中心に於いて圖の如く丈を定める。丈は少くとも坐つて膝の出ぬ程度の長さにする。腰廻り線に於いては腰廻りの四分の一に一・五糎四分を加へ、上部は胴廻りの四分の一として一・五糎四分位くり上げ、後は更にクセ二糎五分位を加へる。

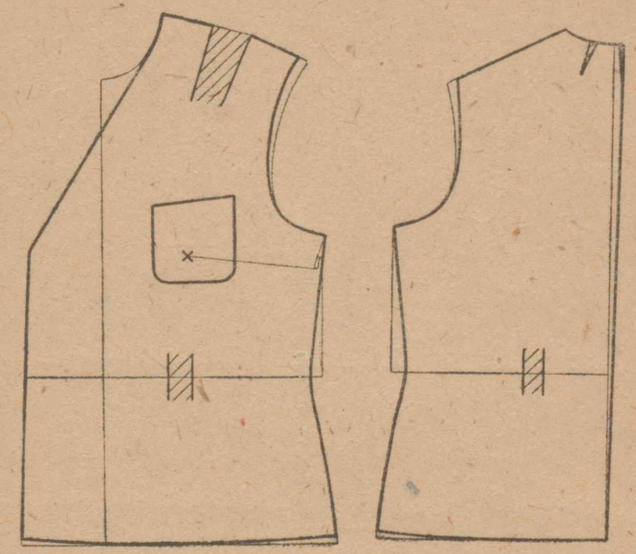
裾線を圖のやうに約三分の一出して一・五糎四分位くり上げ、裾線と脇線をなめらかにかく。脇線は胴原型と同様に一・五糎四分位後にずらせてもよい。

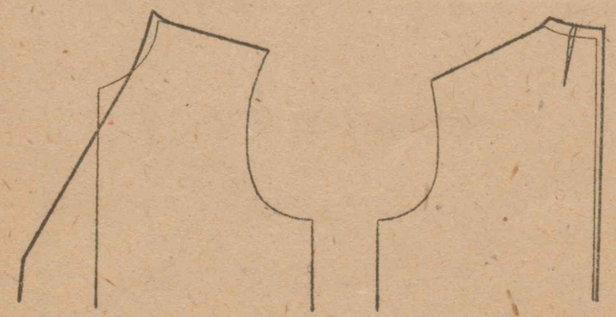
クセは中心より六糎乃至七糎一寸六分一寸八分離れたところに一五糎四寸位の長さとし、下でややひらくやうにする。腹部の出た體型或は腰廻りと胴廻りとの差が普通より多い時は前にもクセを入れる。

○ 腰廻りと胴廻りとの差はどの位が普通か。

なほ前・脇・後丈は體型により異なるから假縫の際補正する。これ等の丈をそれぞれ測つて製圖してもよい。

應用型二部式



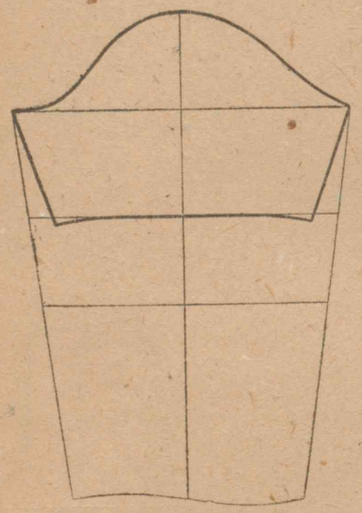


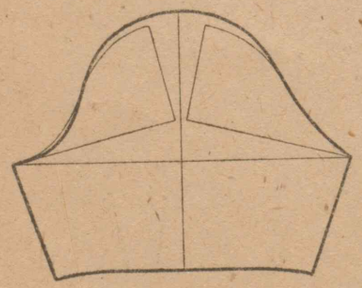
上衣

(一) 身頃

原型を活用して胸にクセを入れ、丈をのばし、前の重なりを定め、衿ぐりをかく。後衿ぐりに圖のやうにクセを入れてもよい。衿ぐりは原型よりやや大きくすることもあり、また圖のやうに僅かにのぼせることもある。物入は適當な形とする。なほ胴の餘りはその分量により適當につまみを入れる。身頃の肩幅は、袖のふくらみに應じて圖のやうに一糎位せまくする。

(二) 袖





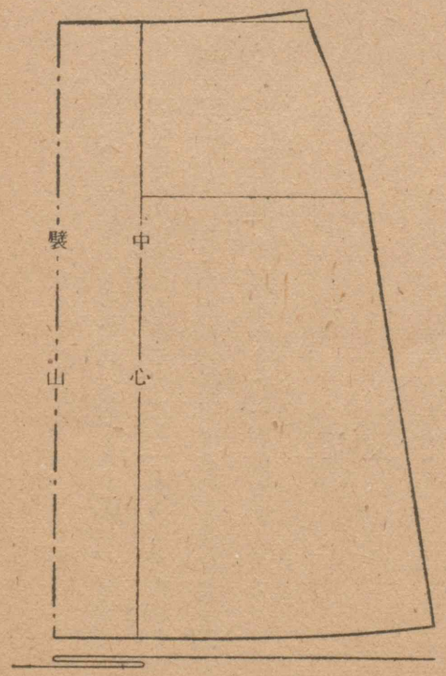
袖丈を定め、圖のやうに袖山に切込みを入れ、四糎一寸乃至八糎二寸位開き、山を一・五糎二分五厘位高くする。長くなつた分を襞又は縫ひちぢめにする。

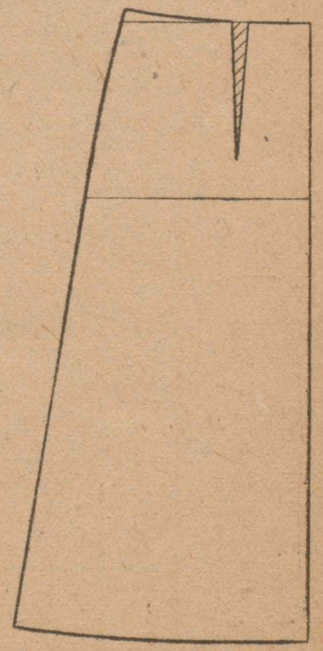
○　襞を取る場合を紙で試作せよ。

下衣

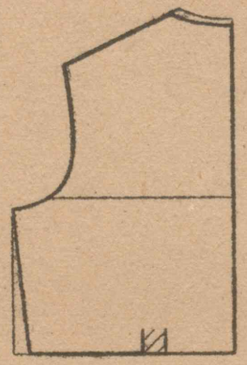
前原型に襞山及び襞の深さを定めておく。出來上りの胴廻りに適當のゆるみを加へてもよい。

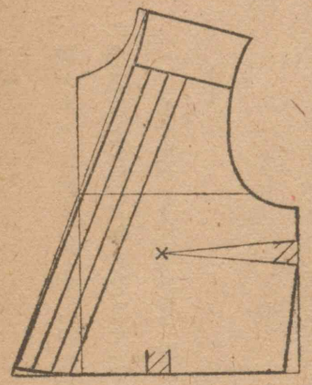
○　襞山及び深さの定め方を考へよ。





應用型一部式

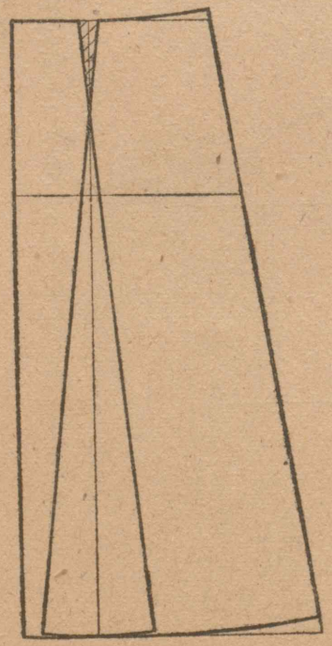




上半身

衿ぐりは原型より大きくし、肩布は六糎一寸六分位にする。次に前の重なりの半分を前中心より出し襞山を定める。

○　肩布をつけるのは何故か。



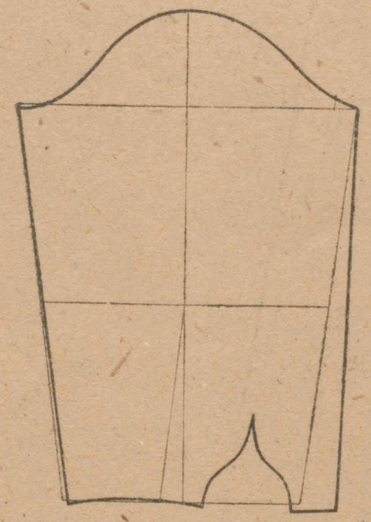
下半身

圖のやうに前後ともクセの入るやうに原型をかき裾を擴げる。胴廻りは全體で六糎一寸六分乃至八糎二寸のゆるみとし、上半身をこれに合はせる。

○ 前の重なり及び下半身の縱の縫ひ目の位置をきめるには、どんなことを考へればよいか。

袖

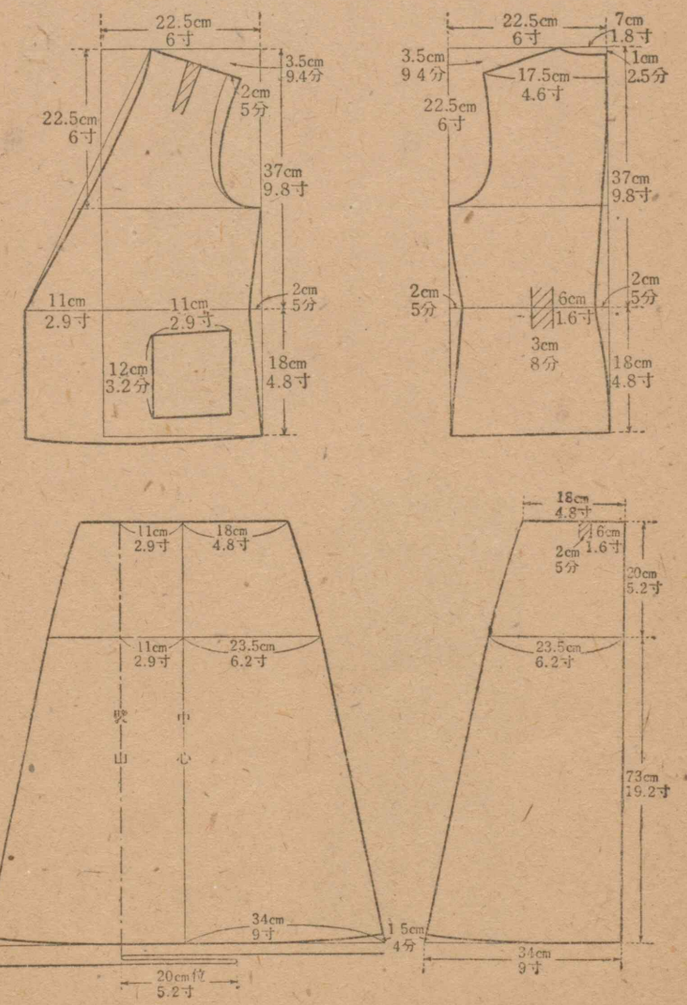
肱から下の袖山線を二・五糎六分五厘位前の方に動かして袖口を定める。クセを利用して圖のやうに意匠を加へる。

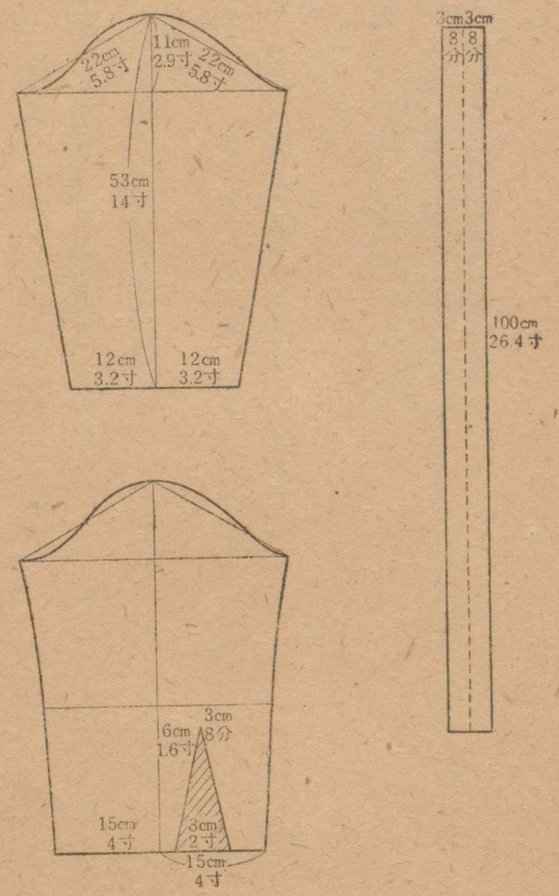


衿

衿幅二・五糎六分五厘位

○ 右圖の型紙の取り方を縮尺五分の一で示せ。





○　右圖は二部式一號の型紙の取り方の一例である。これを研究せよ。

三、布の裁ち方

四、仕立方

イ、假縫

假縫は、服を作るための重要な過程であることは、既習の通りである。なほ配色或は附屬品の選擇についても、假縫の際に十分檢討する。

ロ、縫ひ方

地質によつては、なるべく手縫にすることが望ましい。

○　一部式一號の腋の明きは、着用上どう工夫するか。

ハ、飾り

服によつては飾りを施すとよいものもある。その時は服全體の調子に注意し、且つ清楚な簡單なものを工夫する。

○　飾りをするにはどんな方法があるか。

○　右圖の型紙の取り方を縮尺五分の一で示せ。

○　婦人標準服甲型一部式について研究せよ。

五、着用・手入

○　着用者の個性と被服の色・柄との關係について相互研究をせよ。

○　在來の物の更生の際、地質・色・柄について經驗したところを述べよ。

第五章　平常着　冬季用

冬季の被服が具備すべき主要な條件は、保溫をはかることにあり、それには材料・形・着方等につき考慮することが肝要である。被服と保溫との關係については、本書に於いて既に學んだところであるから、これをここで活用すればよい。特に表着は溫まつた空氣を換氣或は對流のために放散させないやうな材料・形・着方を考慮することが大切である。即ち重ね着したり、形を被包型にして適宜のゆとりをつくることなどは、保溫上效果が大きいものである。なほゆとりについては、風紀・衞生・經濟上からもこれを工夫することを忘れてはならない。

一般に冬の被服に對しては、保溫にのみ注意を集中して、とかく通氣と鍛錬とを閑却する傾きがあるが、これでは却つて皮膚の抵抗力を弱めるから、この點には十分留意する必要がある。隨つて材質・形態・着方を考慮することにより通氣と保溫とを適宜に按配する工夫が、特に冬の被服に與へられた重要な課題であるといはねばならない。殊に冬季には出來るだけ鍛錬を考慮することが大切でなる。なほ色・柄等は溫かい感じを與へる汚れの目立たないものがよい。

被服の上に見られる四季のうつりかはりは、溫暖から暑熱へ、暑熱から冷涼にうつる時が最も鮮明で、これ更衣が自然の行事となつてゐる所以である。更衣と共にしみじみと自然の情趣を味はひ、身も心もみ國に生まれた喜びにひたることが出來るのは、誰しも經驗するところである。從來更衣が詩趣に富めるものとして取扱はれた所以も、かかる意味によるもので、これによつてもわが國土と被服、被服と國民性との深いつながりを知ることが出來る。

また氣候の變り目には氣溫が定まらないので、着脱ぎに便利なものが要求される。これに對し羽織類は非常に重寶である。なほ羽織類は廣く防寒用として用ひられてゐる。

○　冬着の補強・繕ひはどうするか。

第一節　活動着（女子用）

第一項　表着

第一　婦人標準服乙型二部式

從來冬季用の表着は、袷或は綿入れ・長着を用ひてゐた。これ等の表着は保溫・通氣の兩方面から考へられたものであるが、仕立も手入も簡易とはいはれない。また活動上・能率上からも考慮の餘地がある。これに對して二部式は仕立が簡易で、手入が容易な上に用布も少くてすみ、形が活動的であ

Approved by Ministry of Education
(Date Aug. 29 1946)

昭和廿一年八月廿九日印刷
昭和廿一年九月二日發行
昭和廿一年九月廿三日翻刻印刷
昭和廿一年九月廿五日翻刻發行

師範被服　本科用卷二
定價金壹圓四拾錢

著作權所有

著作兼發行者　文部省

東京都神田區錦町一丁目十六番地
翻刻發行者　師範學校教科書株式會社
代表者　森下松衛

昭和廿一年九月三日
文部省檢査濟

東京都牛込區市谷加賀町二丁目三番地
印刷者　大日本印刷株式會社
代表者　佐久間長吉郎

東京都神田區錦町一丁目十六番地
發行所　師範學校教科書株式會社

広島大学図書
0130449535